

■小山内薫 劇作家、演出家。新劇界の草創期に新しい世界を追求、(築地小劇場)で新劇俳優多数を育成するも、早世。

おさないかおる

明治14年政変 1881= 広島の大手町で、広島師団陸軍衛戍病院長に赴任していた津軽藩士出の陸軍軍医小山内建(玄洋)の次男に生まれる。母は江戸の幕臣小栗忠順一族小栗信の長女鍊。

岩倉具視没・1883= 2歳：妹やちよ(のちの作家岡田八千代)が誕生。

内閣発足・・・1885= 4歳：父が任地先で急逝したため、母に伴われ東京に移住。芝居好きの母の感化を受けながら、

国民之友始・1887= 6歳：富士見小学校へ入学。

帝国憲法発布 1889= 8歳：

帝国議会始・1890= 9歳：

大本教・・・1892=11歳：母の友人で衆議院議員島田三郎の妻だった島田政子などから強い影響を受けるなどして育ち、この頃から雑誌(小国民){少年世界}を愛読、投稿の常連となるもほとんど採用されず。

日清戦争始・1894=13歳：

日清戦争終・1895=14歳：学制改革で、東京府立尋常中学校(後の一中)二年に編入。同級生武林無想庵とは生涯の友になる。

白馬会・・・1896=15歳：俳俵に凝り鶯亭金舟に入門。2世_市川左団次と知りあい生涯の芸友となる。

母の希望で、在学中に二度陸軍幼年学校を受験するも不合格となり軍人を断念。国木田独歩に親しむ。

Bushidou・・・1899=18歳：第一高等学校文科に入学、寮に入る。小学校の同級女性と再会して恋愛始まる一方、内村鑑三の著書に感動し入門、(聖書之研究)の編集助手を務め、父のように慕うが、のち確執。

田中正造直訴 1901=20歳：自らのルーツ求めて津軽を訪れ、父の母中村伊佐と会う。(校友会雑誌)に掲載の詩「水車」が評判に。

教科書疑獄・1902=21歳：東京帝国大学英文科に入学。

日比谷公園・1903=22歳：*メーテルリンク「群盲」を訳して森鷗外の{万年草}に投稿、上田敏に感嘆されて鷗外の観潮楼に招かれ、伊原青々園・伊井蓉峯らを知り、演劇界と関わり始める。

日露戦争始・1904=23歳：伊井一座で翻案演出し舞台裏で働く。川田順らと同人雑誌(七人)発刊、処女戯曲「非戦闘員」を連載。

日露戦争終・1905=24歳：_(七人)特別号として詩集「小野のわかれ」を世に問い、雑誌「歌舞伎」に執筆、

満鉄発足・・・1906=25歳：妹が岡田三郎助と結婚。恋愛していた女性も結婚してしまい、失意。卒業。散文詩集「夢見草」刊行、

韓国反日暴動 1907=26歳：浅草に転居。歌人吉井勇を知る。数井政士の援助で、伊井一座に絶望して退座し、(新思潮)創刊、チェホフの「決闘」を訳載。いくつか創作し田山花袋に認められ、小説界にもデビュー。

アヲキ創刊・1908=27歳：小説集「窓」・演劇評論集「演劇新潮」刊行。_初の講演「新しい劇の樹立」、左団次が外遊から帰国すると、

伊藤博文暗殺 1909=28歳：*左団次とともに、会員制の(自由劇場)を始め、イブセンの「ジョン・ガブリエル・ボルクマン」を上演。

韓国併合・・・1910=29歳：第二次(新思潮)創刊。慶應義塾大学英文科講師となる。小説集「笛」刊行するも発禁処分。

大逆事件判決 1911=30歳：中川登女子と結婚。以降、小説を次々創作刊行しながら、ゴーリキーの「夜の宿(どん底)」、ハウプトマンの「寂しき人々」などの公演を行い、坪内逍遙の「文芸協会」とともに、新劇界の草創期を形成して行く。

明治天皇没・1912=31歳：演劇視察のため海外巡歴に出、

大正政変・・・1913=32歳：露・独・スカンジナビア・オーストリア・英・仏を巡歴、_ロシアのモスクワ芸術座で開眼、役者を断念し演劇革新が使命と、帰国。「夜の宿」を大きく修正して再演。この頃の生活描いた小説「大川端」刊行。

第一次大戦始 1914=33歳：長男が誕生、まもなく母が死去。

21ヶ条要求・1915=34歳：チェホフ「桜の園」を近代劇協会による帝劇公演として演出。

民本主義・・・1916=35歳：次男が誕生。

ロシア革命・1917=36歳：家が類焼に遭い転居を重ねる。モオーパッサン「愛国者」の左団次一座による帝劇公演を演出。

本格政党内閣 1918=37歳：三男が誕生。_市村座顧問となる一方、松竹キネマの設立に関与し、明治座公演も演出。

ベルリン条約・1919=38歳：_左団次の本業歌舞伎の舞台が多忙になり、(自由劇場)を解散したが、左団次のために、その後も鶴屋南北の「謎帯一寸徳兵衛」を演出したり、現代語にした「博多小女郎波枕」などを書いて行く。

大暴落・・・1920=39歳：_市村座辞して松竹キネマ研究所所長となり、芸術映画銘打ち、自ら主演の「路上の靈魂」を制作中、ロケ先の軽井沢で心筋梗塞で倒れる。

原敬首相暗殺 1921=40歳：戯曲「第一の世界」、童話集「石の猿」。松竹キネマ研究所解散するが、多数の演出に当る。

水平社結成・1922=41歳：京都の知恩院境内で野外ページェント「織田信長」を公演。_(劇と評論)創刊。

関東大震災・1923=42歳：戯曲「息子」。松竹から退き、慶應義塾も辞す。_震災の報に急速ドイツから帰国した土方与志に要望され、

護憲三派圧勝 1924=43歳：*震災で廃墟となった築地に、「演劇の実験室」(築地小劇場)を開場、青山杉作も参画、3人が交代し多くの俳優を育て行く。翻訳劇に専念すると宣言して多くの西欧戯曲を紹介、劇作家から激しく反発されるが、

治安維持法・1925=44歳：ラジオドラマ研究会設立。初のラジオ演出「炭坑の中」を放送。

円本時代始・1926=45歳：「小山内薫戯曲全集」第「巻」刊行。_「役の行者」を皮切りに創作劇も舞台にのせ、

金融恐慌・・・1927=46歳：ソ連革命十周年記念祭に国賓として招かれるが、帰国後健康を害し、推進した左団次のソ連公演には同行できず。(東京朝日新聞)の劇評欄担当。この間も執筆・刊行を続け、

共産党事件・1928=47歳：*自作「国性爺合戦」も上演。一時失心するも小康状態を得、主治医の厳重忠告のなか仕事に専念するが、この年最後で(築地小劇場)81回目の上演となる「晩春騒夜」打上げ会の席上、心臓麻痺で倒れ、没した。

第2次世界大戦後の新劇を復興させた俳優は、みな築地小劇場出身である。